

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①猪木武徳著『自由の思想史』新潮社 (239頁, 四六判)</p> <p>自由は本当に「善きもの」なのか。著者の思考はそこからスタートする。市場経済が暴走し、民主主義が機能不全に陥るのは、自由が足りないせいなのか、過剰のせいなのか。経済学の第一人者としての視点から、古代ギリシア・ローマに始まり、中世ヨーロッパ、近代日本、さらには現代グローバル社会など、古今東西の歴史と思想を行き来し、人間精神の自由、政治経済体制としての自由のあり方を問う。そして、自由への問いかけは「神聖なもの」の観想となり、真の自由論の最初の一步となると導く。ただ、西洋では権力が多面的である一方、日本の権力は一元的で、いまだ権威主義から抜け切れていないと解き明かす。新潮社の雑誌『考える人』に書きためたものをまとめた。</p>	<p>③町田祐一著『近代日本の就職難物語』吉川弘文館 (6+222頁, 四六判)</p> <p>まだ大卒者が珍しかった明治末期の日本では、一定の職業に就いていない者は「高等遊民」と呼ばれ、「危険思想化」や「左傾化」の浸透も相まって社会不安を助長した。一方、就職難を批判する経済界の自己責任論の主張や就職マニュアル本の隆盛など現代とあまり変わらない面も指摘。著者は採用実態の多数が日本特有の「縁故」であることも見出す。高等遊民の就職難は、日露戦争後、明治末期にかけて次第に拡大したものの、大戦景気の到来で事態は急変、当時の就活戦線は好転した。このように就職は好不況に非常に影響される問題であり、その時々々の社会情勢に大きく左右される。著者は就職そのものを問い直すことは、社会のあり方を考える契機になると主張する。</p>
<p>②大内伸哉著『勤勉は美德か?』光文社 (260頁, 新書判)</p> <p>労働法学者である著者は「労働法の遵守は、幸福な仕事人生の必要条件だが、十分条件ではない」と言う。例えば「厳しいノルマや納期の設定」「家族を引き離す転勤命令」「社員間の過当競争」などの事例はいずれも労働者に主体性がない。会社に雇われる形態である「雇用」を選択する限り、労働者の主体性とは相いれないと説く。では、日本の労働者が幸福になる道はないのか。著者は、まず仕事の内側に入り、自分の「作品」をつくり出すことを提案。また、働く者が「時間主権」を回復させる重要性も強調する。さらに人事と評価、ワーク・ライフ・バランス、日本特有の雇用・休暇文化を見直しながら、主体性を発揮させるために情報の収集、分析、行動が不可欠だと解説する。</p>	<p>④小池和男著『「非正規労働」を考える』名古屋大学出版会 (xi+215+8頁, 四六判)</p> <p>労働経済学の大家が、戦後労働史の視角から「非正規労働」問題にメスを入れる。現在の非正規労働をめぐる議論は、市場での競争力を無視しているのではないかと懸念を持ったのが、本書執筆の出发点だという。正規と同じ仕事をしているのに、安い賃金の非正規が急増しているのは、決して市場競争が不徹底であるからではないと指摘。非正規労働者が存在する根拠には、人材選別機能と雇用調節機能、加えて低技能分野の担い手としての機能があるとする。そのうえで中下位職の場合の人材選別機能面での提案としては①非正規労働者の正規への昇格制の整備②査定の恣意性の制限——をあげる。②に関しては、「仕事表」を貼り出すことで「非正規の熟練化」につながるかと説く。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2016年6—7月労働図書館受け入れ)

- ⑤新井健一著「知らない課長、すごい課長」日本経済新聞出版社(243頁, 新書判)
- ⑥内藤勲他編著「表象の組織論」中央経済社(iii+iv+212頁, A5判)
- ⑦本間浩輔他著「会社の中はジレンマだらけ」光文社(217頁, 新書判)
- ⑧ナイラ・カビール著「選択する力」ハーベスト社(xvi+436頁, A5判)
- ⑨加藤久和他編著「超高齢社会の介護制度」中央経済社(5+v+266頁, A5判)
- ⑩片山悠樹著「ものづくり」と職業教育」岩波書店(vi+219+10頁, 四六判)
- ⑪児美川孝一郎著「夢があふれる社会に希望はあるか」ベストセラーズ(190頁, 新書判)
- ⑫石川善樹著「疲れない脳をつくる生活習慣」プレジデント社(165頁, 新書判)
- ⑬大山泰弘著「日本でいちばん温かい会社」WAVE出版(189頁, 新書判)
- ⑭藤本耕平著「つくす」若者が「つくる」新しい社会」ベストセラーズ(222頁, 新書判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

